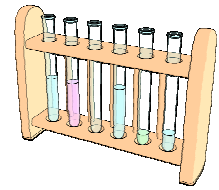


Labo letter



創刊にあたって

盛夏の候ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素より下関市医師会臨床検査センターをご利用いただきまして有難うございます。

小泉政権の医療改悪による度重なる診療報酬の引き下げにより、我々会員の医療機関は多大な打撃を受け、経営を圧迫し続けております。同様にして本会検査センターにおいても検査点数の引き下げにより、非常に厳しい経営を強いられております。

顧みますと、本会検査センターは昭和37年6月下関市医師会立臨床検査センターとして細江町に設立、昭和49年9月、現在地に医師会館新築と共に移転してまいりました。以来、会員の為の臨床検査センターとして、45年の歴史を誇っております。

本会臨床検査センターでは、昨今民間営利業者との競合もさることながら先生方の医業経営の一助となるべく、検査料の引き下げを始め精度の高いサービス向上を目指し不断の努力を致しております。

今回、その一環として広報紙「Labo letter」を創刊する運びとなりました。取りも直さず会員の先生方のニーズに沿った検査センターである為には、先生方と双方向の情報交換こそが、大きな鍵を握っていると思っております。これからも先生方の忌憚のない声をお伺いしながら、編集していきたいと考えておりますので、ご意見・ご要望等、どしどしお寄せ下さい。本紙は当面3・4ヶ月に一度の発行を予定しており、軌道に乗りましたら、増刊発行が出来るよう目指しております。

今後とも皆様方のご期待に応えられるよう一層の努力をしまいる所存ですので、ますますのご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げご挨拶と致します。

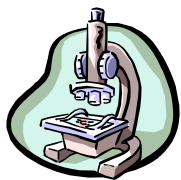
下関市医師会 会長 中 島 洋

なお、挨拶文は一部編集により変更しております。

集配のご案内

平日(月～金) 午前・午後の2回
土曜日 午前のみ

これ以降の検査物の回収は、お電話いただければ対応させていただきます。



検査情報

細菌性食中毒 と 感染予防

■ 細菌性食中毒

細菌性食中毒は食中毒発生件数の 9 割を占め、主な原因菌(サルモネラ、カンピロバクター、腸炎ビブリオなど)は、初夏から盛夏に集中して検出されています。これは、高温多湿の環境下で、食品の取り扱いが不良であると、容易にこれらの菌に汚染されてしまうためだと考えられます。

下の表のように原因菌によって主な原因食品、潜伏期間などが異なります。検査室では依頼書に記載された便の性状、家族歴などの情報を参考に検査を行っております。

夏期に多発する細菌性食中毒の原因菌と特徴

菌名	主な原因食品	潜伏期間	症状					特徴
			血便(粘血便)	水様便	腹痛	発熱	嘔吐	
サルモネラ	鶏卵、卵製品、食肉	8～48時間	○		○	○	○	犬、猫などの保菌率高い・盛夏多発
カンピロバクター	肉類(主に鶏肉)	2～7日間	○	○	○	○	○	5～7月の初夏に多い胆汁色便～粘血
腸炎ビブリオ	魚介類、すし類	10～18時間	○	○	◎	○		夏季に多い・好塩菌 上腹部痛
O-157	牛肉、牛肉加工品、生野菜、井戸水など	3～8日間	◎		○	○		O157:H7が最も多い時にHUSを続発
細菌性赤痢	飲料水、食物	1～4日間	○		○	○		海外渡航歴 左下腹部痛
コレラ	飲料水、食物	1～3日間		◎			○	海外渡航歴、無熱 米のとぎ汁様便

○ 症状あり

◎ 激しい症状

HUS:溶血性尿毒症症候群

(参考情報)

●当検査室の便の細菌検査月別検出状況(平成 18 年 4 月から平成 19 年 3 月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
サルモネラ	1	3	3	8	29	21	12	5	1	0	0	2	85
カンピロバクター	36	47	47	56	43	58	38	27	26	32	18	33	461
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	3	6	0	0	0	0	0	0	9
病原性大腸菌 (出血性大腸菌)	29	48	46	46	25	46	28	47	59	26	58	60	518
	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	3
ロタウイルス	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	12	15
合計	67	99	97	110	102	131	78	80	86	58	76	107	1,091
陽性率	27.6	33.4	38.0	37.9	32.1	44.7	31.2	29.2	29.0	23.1	28.7	38.2	32.8

お知らせ

Clostridium difficile の毒素検出検査について

平成 19 年 7 月 1 日より C. difficile の毒素検出検査を実施いたします。この菌は、偽膜性大腸炎、抗菌薬や抗腫瘍薬投与後の下痢症や腸炎の主な原因菌で、院内感染の原因にもなります。

●測定原理 イムノクロマトグラフィ

●保険点数 70 点(判断料;免疫学的検査 144 点)

●検査材料 新鮮な糞便(拇指大) 保存時は 2～8℃72 時間以内

細菌検査室(内線 331)

■**感染予防**……感染経路を一次感染経路と二次感染経路に分けて考えると整理しやすいと思います。

一次感染を防ぐには

一次感染は細菌やウイルスに汚染された食品を経口摂取することにより感染するのでその予防法として以下のことが考えられます。

1.食材の注意

- ・食品の保管温度(4℃以下)
- ・生野菜は流水による十分な洗浄
- ・十分な加熱調理中心部(75℃1分以上,
または 100℃5秒)

3.調理人の衛生

- ・こまめな手洗い

2.調理器具の管理

- ・熱湯と次亜塩酸ナトリウムにより清潔に
管理

4.調理後の食品管理

- ・調理した食品は速やかに食べる
(前日調理は避ける)

二次感染を防ぐには

二次感染の主な経路は患者の糞便です。患者の糞便が直接または洗面所、リネン類を介して手から口への接触感染を起こすので、その感染経路を断ちきる方法を以下に示します。

1.手洗いの励行

- ・流水と石鹼を用いて十分に時間をかけて手洗いを行う
洗った手は完全に乾かすことが基本
- ・患者などの糞便に触れる可能性がある場合は手袋使用



2.寝具やリネンの洗濯について

- ・80℃10分間の洗濯を原則
- ・すぐに洗濯できない場合や移動しなければいけないときは、ビニール袋に入れ、移動後80℃10分間の洗濯
- ・熱を加えられない場合は、すすぎの段階で0.01～0.1%程度の次亜塩素酸ナトリウム液に5分間浸す

3.洗面所の湿潤場所の注意

- ・洗面台、とりわけカランは石鹼で洗い乾燥させる(湿潤していることが多く、気温が高い場合は病原菌が繁殖している可能性がある)
- ・場合によっては、0.1%次亜塩素酸ナトリウム液で消毒
- ・洗面所の取っ手、ドアノブ、便器……第四級アンモニウム塩、両性界面活性剤による清拭
- ・トイレ槽……第四級アンモニウム塩を最終濃度0.1～0.5%なるように注ぎ、5分以上放置後流す

4.便の付着した物品

- ・便を洗い流した後、熱湯あるいは家庭用消毒剤による消毒

(参考文献) ・ Q&A で読む細菌感染症の臨床と検査

・ 明治製薬ホームページ

・ 第22回近臨技微生物検査研究班研修会テキスト

・ 下関市保健所ホームページ

担当理事から一言

下関市医師会臨床検査センターは、このほど広報紙を発行することとなりました。これは、会員の先生方に様々な情報をお届けする事により、我が検査センターがより身近な存在として可愛がっていただく意味もあります。今年度は、センター内のコンピュータシステムを刷新し、電子カルテの対応も万全なものとし、加えて施設内の作業の効率化を図ります。

引き続きご愛顧の程よろしくお願い申し上げます。

担当理事 時澤 郁夫

センター紹介シリーズ

現在、臨床検査センターでは生化学・一般検査、血清検査、血液検査、細菌検査、病理検査、生理検査の6つの部門に分かれて検査を行っております。

各部門でどんな検査をしているのか、紹介していきます。

細菌検査

細菌検査室では、喀痰、尿、便、膿、血液などを検査材料として、一般細菌、嫌気性菌、真菌検査および抗酸菌検査を行っております。

各種材料の塗抹(便は除く)、起因菌の同定、薬剤感受性検査などが主な内容です。薬剤感受検査は、微量液体希釈法による MIC 値(定量)と SIR(定性)の両方で報告しています(グラム陽性桿菌は定量値のみ)。

また迅速検査ではロタウイルス、インフルエンザウイルス、尿中肺炎球菌莢膜抗原も行っております。

当検査室は、最短2日間で結果を提供できるのが特徴です。「正確・迅速」をモットーにスタッフ全員で頑張っています。



検査 Q&A

Q：肝炎ウイルス検診はどのスピッツに採血すればいいですか？

A：生化学用スピッツ1本、及びHCV-RNA用スピッツ(以下専用容器)1本に採血して下さい。HCV抗体が中力価、低力価で更にHCV抗原陽性の場合はHCV-RNAの検出を行うため、専用容器が必要となります。ただし、専用容器がない場合は生化学用スピッツで代用できます。

血清検査室

編集後記

ホットで真心のこもった情報を届けたく、LoveにかけてLabo letterと命名しました。不十分な点多々あるかと思います。ご意見をお待ちしております。また、記事についてご不明な点がございましたらお気軽にお問い合わせ下さい。何卒ご愛読の程お願い申し上げます。

編集委員 岩野千春・大田美千代・亀井美由紀

田中郁子・畑 里佐子

発行責任者 椿 安志

〒751-0831 下関市大学町2丁目1-2

下関市医師会臨床検査センター

TEL 0832-52-2188 FAX 0832-55-0726

TEL 0832-52-3794(検査室直通)